

アユの資源と早期アユの漁獲状況について

1 天然河川の産卵状況(主要 11 河川)

- ・ 9月下旬から2週間に1回のペースで6回調査。
- ・ 総産卵数は 53.6 億粒 (平年比 57.8%) となった。
- ・ 平年を下回った理由として、8月の増水で各河川とも多くの親魚が遡上したものの、9月に入ってからの少雨と残暑により、各河川とも水温が高い状況が続いたことや*、水量減少により産卵に適した場所が少なかったことが考えられる。

※第2次調査時に安曇川 25.7℃、姉川 25.7℃、知内川 25.4℃、野洲川 29.2℃ など、10河川で産卵最適水温上限の23℃以上であった。

表1 調査次別合計産卵数と平年値との比較

(単位:億粒)

調査次	8月下	9月中	9月下	10月中	10月下	11月上	総産卵数
	1次	2次	3次	4次	5次	6次	
R1	0.0	13.1	25.7	11.7	3.1	0.0	53.6
平年値*	0.1	19.6	32.2	20.1	0.2	0.0	92.8

※平年値:過去10年間のうち、最大値、最小値、過小評価となったH30年を除く平均値。

表2 調査次別・河川別産卵数

(単位:億粒)

河川名	第1次調査	第2次調査	第3次調査	第4次調査	第5次調査	第6次調査	計
	8月26日~29日	9月9日~12日	9月24日~27日	10月7日~9日	10月21日~23日	11月5日~6日	
安曇川北流	0.0	0.1	0.4	※0.0	※0.0	渴水	0.6
安曇川南流	0.0	0.2	6.8	3.2	※0.0	0.0	10.2
石田川	0.0	0.2	0.5	0.9	1.2	0.0	2.8
知内川	0.0	1.5	3.2	1.1	※0.0	※0.0	5.8
塩津大川	0.0	0.2	0.8	0.1	※0.0	0.0	1.1
姉川	0.0	10.7	6.7	5.3	1.7	0.0	24.4
天野川	0.0	0.1	2.3	0.3	0.1	0.0	2.7
芹川	0.0	0.1	0.3	※0.0	増水	0.0	0.4
犬上川	0.0	0.1	3.5	0.3	増水	0.0	3.9
愛知川	0.0	0.0	1.0	※0.0	増水	増水	1.0
野洲川	増水	0.0	0.0	0.0	増水	0.0	0.0
和邇川	0.0	0.0	0.1	0.5	※0.0	0.0	0.6
計	0.0	13.1	25.7	11.7	3.1	0.0	53.6

※単位未満の産卵あり。

2 人工河川の放流状況

(1) 安曇川人工河川

- ・ 県内養殖業者が育てた養成親魚8トンを計画どおり放流。
- ・ 総流下数は 19.8 億尾。



写真1 安曇川人工河川での親魚放流

(2) 姉川人工河川

- ・姉川に遡上した天然親魚4トン^を計画どおり採捕し放流。
- ・総流下数は5.4億尾。

(3) 流下仔アユ数

- ・安曇川、姉川の合計流下仔アユ数は25.2億尾。
- ・計画量24億尾(=親魚1トン当たり2億尾×12トン)の105%。

3 湖中仔アユ(ヒウオ)生息状況調査

①調査概要

- ・琵琶湖へ流下した仔アユの生息状況を把握する調査。
- ・琵琶湖沿岸の9水域で水深8m層を曳網し(1km×2回)仔アユを採集。
- ・10月～12月の各月1回、新月の夜間(2日間)に実施。

②実施日

第1次：9月30日、10月1日

第2次：10月28日、29日

第3次：11月26日、27日

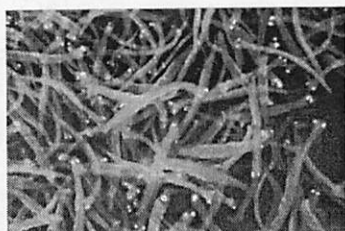


写真2 採捕されたアユ仔魚と調査風景(デモ)

およそ1cm～4cmのアユが採捕される。



図1 調査水域

③結果

採捕尾数

第1次調査：52尾／曳網 平年の39%

第2次調査：70尾／曳網 平年の74%

第3次調査：20尾／曳網 平年の67%

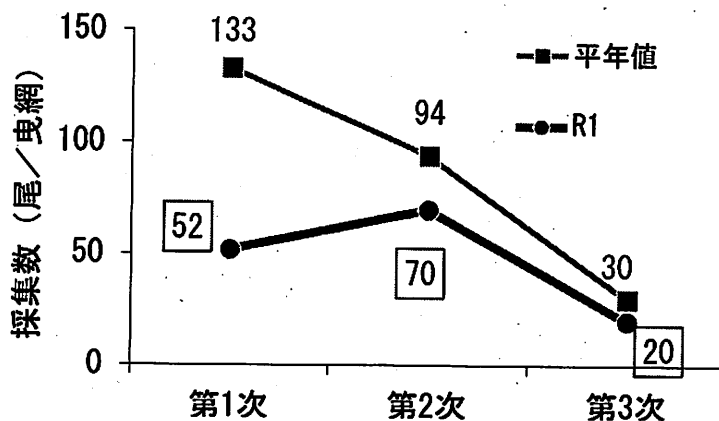


図2 湖中仔アユ(ヒウオ)生息状況調査による一曳網当たり採捕尾数の比較

平均体重

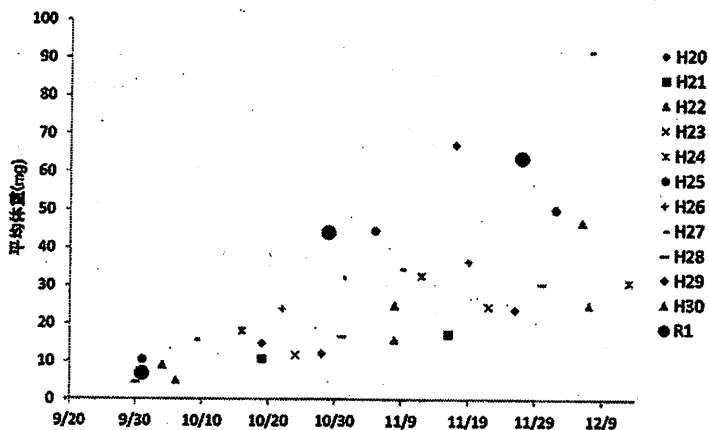


図3 調査日とヒウオ平均体重の関係

- 第2次調査では、44mg、第3次調査では64mgとなり、過去の調査結果と比較すると大型であった。

4 まとめ

- 人工河川からの流下仔アユ数は 25.2億尾で、計画量を上回った。
- 今期の天然河川の産卵状況は 53.6億粒で 平年比57.8%と少なかった。
- ヒウオ生息状況調査による採捕尾数は、第2次調査以降では平年に近いものの、すべての調査で平年を下回った。
- 琵琶湖に流下した仔アユ数は、天然河川から108億尾 (53.6億粒×2.01)、人工河川から25億尾の計133億尾であり 平年比62%であった。

5 今後の調査予定

- ・令和2年1月から8月まで、月1回ずつ周回コースおよび全域(トランセクト調査)での魚群探知機により湖中アユの分布状況を把握。
- ・毎月の漁獲物による、成長、肥満度(栄養状態)、漁具別ふ化日組成等の資源調査を行い今季のアユ資源の状態を随時推測。

6 早期アユの漁獲状況(速報)

- ・12月2日から活魚(アユ苗)漁獲開始(12月注文量16,000kg)
- ・エリの操業合計統数は46統(16漁協)。(H30:43統 H29:52統)
- ・初日の漁獲量は4,870kg(平年値5,429kg)で、平年値の9割(平年値:過去10年の平均)
- ・その後の漁獲も比較的順調に推移し、12月10日(9日目)には累積漁獲量が16,163kgに達して注文量を満たしたため12月の活魚漁獲は終了。活魚漁獲は来年1月10日から再開予定
- ・鮮魚(食用)の漁獲期間は12月11日から20日までで、漁獲量が10トンに達した場合はその時点で終了(県漁連アユ苗流通委員会での決定事項)。

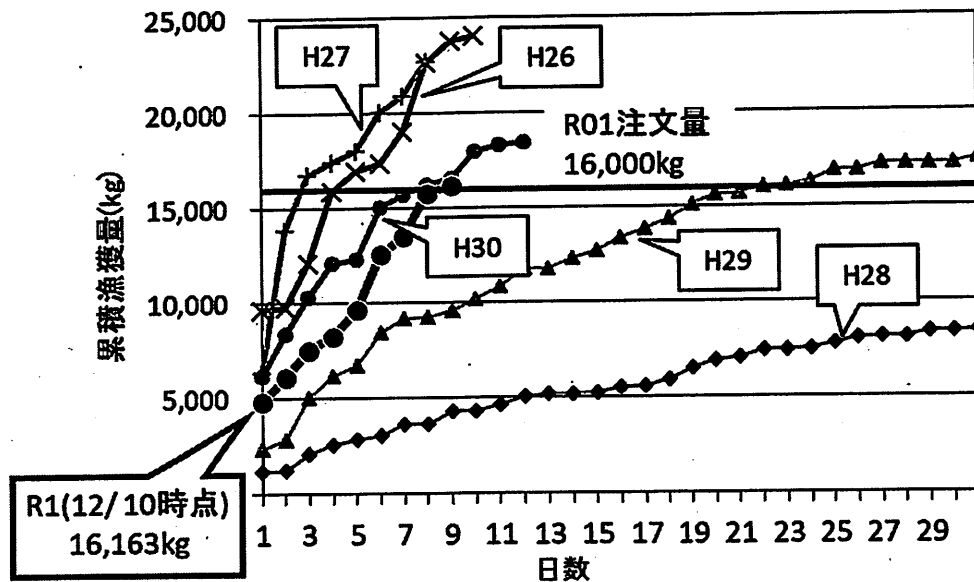


図4 12月の活魚漁獲状況の比較